

ワクチンで予防できるがんがあります～子宮頸がんについて～

参考：国立がん研究センターがん情報サービス

働き盛り・子育て世代の女性に多い子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんです。20代から診断される人が増加しはじめ、30代がかかるがんの中では2番目に多いものとなっています。日本では、年間約2,900人が子宮頸がんによって死亡していますが、早期に発見し、早期治療につながれば比較的予後の良いがんです。ワクチンによる「予防」と、検診による「早期発見」が重要です。

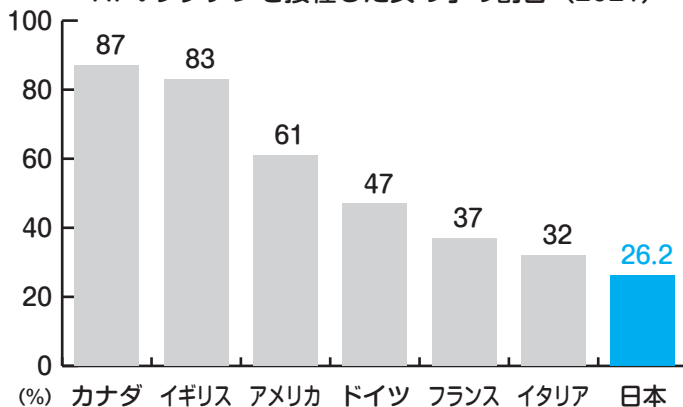


子宮頸がんは「ワクチンで唯一予防できるがん」です

子宮頸がんの原因のほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルス感染によるものです。女性の多くが一生涯に一度は感染する*とされています。感染経路は性交渉ですが、肛門や手指にウイルスが付着していることもあり、コンドームだけでは防ぎきれません。そのため、性交渉を経験する前にワクチンを接種し、感染のリスクを下げるのが推奨されます。

※感染しても免疫によって自然消滅する人がほとんどですが、一部の人はがん化します。どのような人ががん化しやすいのかは未だ判明していません。

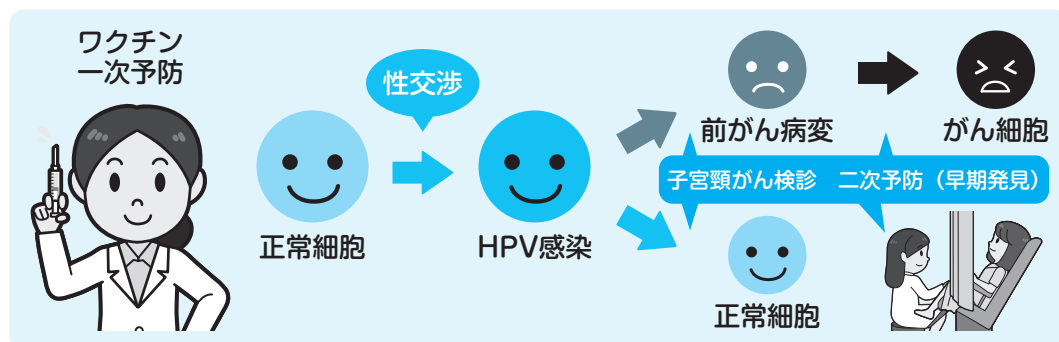
HPVワクチンを接種した女の子の割合（2021）



(%) カナダ イギリス アメリカ ドイツ フランス イタリア 日本
先進7か国と比べると、日本の接種率は他国より低い状況です。
※日本は2022年度から、接種の積極的勧奨を再開しました。
厚生労働省作成リーフレット「HPVワクチンについて知ってください」

ワクチンを接種すれば安心ですか？

HPVには様々な型があり、ワクチンで予防できるHPVは限られたものです。予防のためには、ワクチン接種に加え、2年に1度の子宮頸がん検診を受けることが重要です。



対象者には受診券を送付しています。



市ホームページ「子宮頸がん検診」

HPVワクチン接種に関する相談窓口について

接種に関する不安や疑問等、ご相談ください。

和歌山県 福祉保健部 健康局 健康推進課 ☎073-441-2643 FAX073-428-2325

※接種後、健康に異常があるときは、接種した医療機関にご相談ください。

